

タイトル：米国の学会で木材内部の診断装置（ぼん太 ProVersion 最新バージョン）
について発表

陶山大志専門研究員は、10月6日～10日に、アメリカ合衆国（ユタ州ソルトレイクシティ）で開催された国際森林研究機関連合（ユフロ）の大会に参加し、研究発表を行いました。ユフロは森林研究者の国際ネットワークで、森林と樹木の理解を高める学会として設立されており、4年に1回世界大会が開催されます。

この学会において、同研究員は木を切らないで幹内部の様子を診断する手法について発表しました（写真1）。この診断法は外観からは分からない幹内部の腐朽（ふきゅう）や空洞を、幹を打撃した時の音の周波数を指標にして、検出する手法です。従来の診断機器と比較して、木の打撃音を計測するだけで結果が得られる簡易な手法であり、装置も小型化が可能です。同研究員は本診断法の実用化研究を進めて、特許を取得し、県内企業や大学等と連携して専用の診断装置を開発し、現在、国内の公園・街路樹の危険木診断や林業での利用が進んでいます。

しかしながら、本診断法については国外ではまだ知られていないこと、診断装置に空洞面積の大きさを表示できるなどの新たな改良を施したこと、また、本装置が国外でも今後の普及が見込まれること一などの観点から今回発表することにしました。

同研究員はポスターで発表（写真1）を行い、発表の際、最新バージョンの診断装置（ぼん太 ProVersion、写真2）を用いて実演も行いました。本装置は木を打撃すると瞬時に幹内部の様子が表示されるため、分かりやすく、実用性の高い診断装置として、各国の樹病や木材の研究者から注目を集めました。

今後、本診断法と装置が国外でも普及することが期待されます。

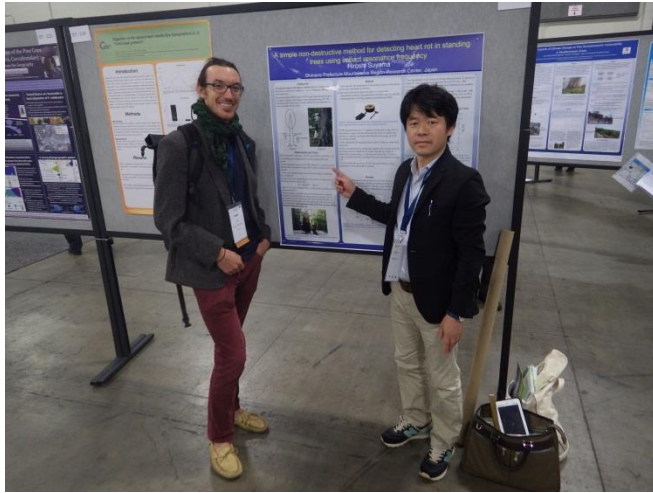


写真1 ポスター発表時の様子

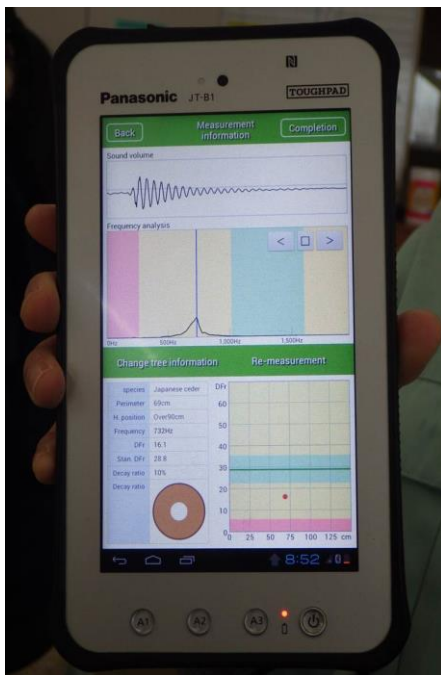


写真2 専用の診断装置：ぼん太 ProVersion (最新バージョン)
※空洞の大きさのイメージを表示できる。